

例会報告

Rotary

高山西ロータリークラブ



17-18 年度会報月間写真 お城シリーズ
2 月 郡上八幡城① 新井 典仁

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
大垣共立銀行 高山支店 4 F
- 会長 米澤 久二
- 幹事 鴻野 幸泰
- 会報委員長 新井 典仁

<会長の時間> コーチング

さて 1/15 より開始したテニスの全豪オープンですが、36 歳のフェデラーが優勝し幕を閉じました。以前お話ししたようにグランドスラムはウィンブルドン大会はじめ 4 つ大会あるわけですが、北半球が冬の時、暖かいオーストラリアで大会があります。試合をテレビで見ていて気が付いたわけですが、試合中コーチングが禁止なので、すべて選手一人で戦うこととなります。これはシングルスに限ってですが、ダブルスの時は味方の選手と相談しながらプレイしています。コーチは観客席にいます。選手がトイレへ行くときもコーチングを受けないように係員が選手についていくそうです。ゲームの間、選手は一人で戦術を考え、自分の精神的なコントロールをすることになります。



似た例としてはラグビーでは監督スタッフがスタンド観客席からみえています。試合中は支持を出せません。実際はハーフタイムに指示やアドバイスを出しているそうです。もともとラグビーはイギリスのリーダー養成のためのスポーツとして教育手段として行われたという側面があるそうです。おおまかな方向は監督が決めても、実際にプレイ中にはキャプテンを中心に選手たちが次のプレイをどうするか決定するそうです。卓球とか他の競技はセットの間の休憩中にコーチと戦術の話をしています。サッカーではコート上で監督が大声で指示を出しています。

情報化が進展する中でスポーツ界にあっても情報戦も大事でありコーチ・スタッフの力添えが必要となります。AI の力を駆使して分析し戦術を考えています。そして戦術を現場に伝えています。テニスも試合前にはたくさんの情報を集めてスタッフが検討し選手に伝えていると思いますが、試合中は選手一人です。孤独な闘いです。

テニスは全人格をもって戦う、自分ひとりで戦術を決め戦うのだ、そしてリスクを負う、人の力なんて借りない、これがテニスだ、ということになると思います。この点に観客から見る「面白さ」があると思います。

企業経営をしておられる皆様にとって助言等はあると思いますが、最後の決断は自分です、孤独の中で決断する、そしてリスクを取る、少しテニスと似たところがあると思いました。

<幹事報告>

◎ガバナーエレクトより

- ・国際協議会より 2018-2019 年度 RI テーマ発表のご報告
「Be The Inspiration」
インスピレーションになろう



◎RI 日本事務局より

- ・2月のロータリーレートについて 1 ドル 110 円 (現行 114 円)

<例会変更>

高山 … 2 月 8 日 (木) は、夜例会のため
18:30~ 飛騨イタリアンアルティジャーノ匠館 3F に 変更

<受贈誌>

(株)クマヒラ(抜萃のつばりその七十七)、RI 日本事務局 (財団室 NEWS)、飛騨作家協会(文苑ひだ第 14 号)、社団法人高山市文化協会(高山メセナメイト会報)

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	32 名	2 名	34 名	40 名	85.00%
本日	38 名	-	38 名	40 名	95.00%

<本日のプログラム> お祝い

◎会員誕生日 (写真左より) 遠藤 隆浩 (当日欠席) 2. 2



鴻野 幸泰 折茂 謙一 山下 直哉 黒木 正人
2. 13 2. 7 2. 3 2. 16

◎夫人誕生日

田中 晶洋 晶 子さん 2. 24
杉山 和宏 啓 美さん 2. 19

◎結婚記念日

岡田 賛三 S48. 2. 10
田邊 淳 H 6. 2. 26
杉山 和宏 H15. 2. 23

◎出席表彰、在籍周年記念表彰 なし

◎3ヶ月表彰

- ・伊藤 松寿 ・井辺 一章 ・黒木 正人 ・下屋 勝比古
- ・杉山 和宏 ・田中 晶洋 ・田中 武 ・田中 正躬
- ・米澤 久二

ロータリー：変化をもたらす

例会報告

受入学生月例報告

Schenck Noemi Beatrice

先月にホストファミリー引越しました。山下家族と本当に楽しんでいました。一緒にクリスマスとお正月を祝いました。クリスマスケーキはとてもおいしかったです。お正月でホストお姉さんと神社に行きました。日本の文化を知りました。山下家族と、日本で初めてスキーを滑ってホテルに泊まりました。マッサージをしてもらって平湯大滝と大鍾乳洞に行きました。それは本当に楽しかったです。直哉さんはすごくスキーが出来ます。

東京に行きました。でもそれについてもう話しました。全ての事に感謝しています。

新しい家族は田近家族です。ホスト兄妹もいます。双子です。本当に可愛い。先週末は「君の名は」を見てスキーを滑りました。ホスト兄妹にヘリコプターと言う回転する滑り方を教えました。楽しかったです。

バスケット部があるから、いつも忙しいです。夜は遅く帰ります。週末で時々ゲームがあります。私もゲームをします。二つのゲームで4ポイント入れました。大変ですがとても楽しいです。

二週間前にロータリーの会議がありました。新しい留学生に初めて会いました。版画の表彰式があったので、会議は途中で帰りました。下屋おじいさんと作った版画が大人のコンクールで二番になりました。五千円貰いました。嬉しいです。

先月はおおさんとの旅行を計画しました。東京と沖縄に行きたいです。とても楽しみにしています。よろしくお願いします。

皆さん聞いていただいてありがとうございました。



塚本 直人

1月30日の午前中に東山中学校において出前講座を行いました。今年度は40分程度の授業を2回受け持ち、それぞれ約10人の生徒たちに対して職業について話をしました。

現在の中学生はとてもまじめな印象で、素直な生徒たちにきちんと伝えることができたかどうか不安な面はありますが、一生懸命に聴いてくれてありがたかったです。私が特に伝えたかったことは、「楽な仕事よりも、苦労した仕事のほうが、喜びが多い。」ということです。50歳になった今、実感することですが、楽を目指して、苦労を避けても、いつか必ず大変なことはやってくるのです。だからこそ、最初から大変な仕事を選んでおけば、おそらく間違いのない選択になるのです。

自分のいろいろ失敗した人生を振り返り、若い生徒たちに話をしました。こちらのほうが勉強させていただきましました。東山中学校のみなさんありがとうございました。



田中 晶洋

昨年までは全体講話があつてそのあと、小グループやクラス毎に分かれて40分ほど話をするパターンでしたが、今回は今までと違って、全体講話が無くて10人程度の小グループでの40分の講座を前半、後半とメンバーを入れ替えて2回行うというもので、用意した資料が足りなくて急遽コピーをしてもらって対応しました。やはりクラス単位の大人数ですと聞いていない子が何人か出てきますが、10人程度だとフェイスツーフェイスでしっかり聞いてもらえるし、子供たちの意見も聞ける感じでした。先生によると東山の子達は素朴な子が多いとのことでしたが、本当にそんな印象でした。

私は最初自分のプロフィールから紹介して、中学生時代は部活をサボって裏山でタバコをすったり、高校時代に夜な夜な無免許運転で車を走らせていたことを話すすごく安心した顔をしていました。話す内容を一生懸命メモを取って真剣な眼差しで聞いている姿から、中学一年生というのはすごく純粋な年頃だなと感じました。

話した内容は、企業理念の「自利利他」という言葉の内容や仏教の「因果の道理」について、どうしたら希望の大学や仕事につけるのか、どうしたら給料が上がるのか、どうしたら欲しいものが手に入るのか、どうして中学生は勉強をしなくてはいけないのかということについて話しました。最後に質問ありませんか？と尋ねると「どうしたら頭が良くなりますか？」「どんな物が手に入りましたか？」という質問が出てきて前者の質問には「自分で上限を決めないことです」後者の質問には「家、収入、車、女性」欲しい物全部手に入りましたと答えました。



青少年奉仕委員会 出前講座報告

委員長 長瀬 達三

1月30日に東山中学校の1年生約120名を対象に出前講座に行って参りました。高山市教育委員会主催の「キャリア教育を考える会」が、市内の諸団体と連携し、市内の各中学校において出張講座を行うという活動であり、当クラブでは4年前から毎年参加しています。

例年、全体講話を行ってから、会員が講師となり、小グループごとの分科会形式で講義していましたが、学校側から「少しでも多くの方のお話を聞かせてほしい」という要望を受け、全体講話は行わず、生徒を入れ替えた上で分科会を2ラウンド行うという形式にしました。

当日は14名の会員が、10名程度の小グループ別に講義したのですが、生徒達が熱心にメモをとり、目を輝かせて話を聞いている姿が印象的でした。

講師を引受けてくださった会員にとっては、同じような内容の講義を合計80分程度しなければならず大変でしたが、各分科会とも非常に好評でしたので、今後もこの2ラウンドスタイルで、未来の職業人たちの成長に役立てるよう、活動を続けていきます。



高桑 光範

今回の出前講座は東山中学校1年生が対象で、約5人ずつの少人数の分科会にて、40分間の講座を、メンバーを換えて2ラウンド行いました。

前回の清見中学校での出前講座では、わが銀行のPRと銀行の仕事の説明に、強く語り続ける自分に半ば酔いしれて、40分の持ち時間のうち、なんと30分を費やし



例会報告

てしまい、本来やるべきキャリア教育の講座が尻すぼみになったという苦い経験をしましたので、今回は時間配分を十分に意識して進めました。

この出前講座には、「高山市キャリア教育を考える会」という大きなテーマがあるわけですが、いざ何を話そうと考えたとき、そもそも「キャリア」って何だろうという素朴な疑問が沸きました。私たちが通常使う、生涯の経歴という意味での「キャリア」とか、「キャリア組、ノン・キャリア組」という理解では、キャリア教育について上手く説明することができません。

調べてみますと、「キャリア教育」でいう「キャリア」とは、上述のような狭義の意味ではなく、学校生活、職業生活、家庭生活、市民生活等の全ての生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動として幅広く捉える必要があることがわかりました。すまわち、究極のところ、その人の「生き方」そのものを指すということです。

私自身が理解していなかったことを、果たして生徒たちが理解しているのか、と思い当たり、今回は生徒たちと一緒に「キャリア」という意味について考えてみようと思いついたわけです。

さて、講義が始まり、自己紹介をした後、生徒みんなに「キャリア」と聞いて何を想像しますか？ どんな意味で使われると思いますか？ と投げかけてみました。前半グループも後半グループも、ほとんどの生徒が首をひねる中、いずれのグループも一人の男子生徒から「キャリアウーマン」という言葉が出てきました。やっぱり、そういう程度の理解なんだと確信しました。当の私ですら同じ程度の理解でしかありませんでしたから。

具体的に生徒たちに教えたことは概ね次のようなことです。

まず初めに、学校生活でも家庭生活でも、毎日目の前にあることだけを漫然とやり過ごすのではなく、今やっていることによって、どんな経験が積めるのか、どんな力がつくのか、と考えながら日々を過ごすことが大事だ、ということを教えました。先のことも考えて、努力しながら毎日を過ごしていけば、必ず成長していくし、何処かで遣り甲斐や生き甲斐を感じる時がある、ということです。今日あったことを振り返る時間を持つために、たとえ一行でも三行でもよいので日記をつけることも一方法であることを伝えました。

二つ目は、失敗は付き物だから恐れるな、ということです。経験が少なければたくさん失敗することは当たり前です。失敗を悔やむより肥やしにすることです。しかし、漫然と過ごしていると失敗にすら気づかないことがあります。有意義な学校生活を送るため、日頃の自分の行動を見つめながら、自分を磨き、人間力を磨いていこう、ということです。失敗は自分の今後の人生の大きな財産になります。また、それを乗り越えるたびに、その後の人生の岐路の判断材料の引き出しが増え、判断力に磨きがかかる、判断することに自信が付き、確信になる、ということをお伝えしました。

三つ目は、前回の清見中学校での出前講座で斎藤先生が触れられましたが、少子高齢化や産業・経済構造の変化等により、生徒たちが就職する頃には、単純作業やマニュアル化しやすい職業等がAIに奪われ、無くなる可能性がある職業がたくさんあるという怖い現実です。銀行窓口業務もその一つかもしれません。まだ中学校一年生、スタートラインと言ってもよく、コツコツ努力して、そんな厳しい環境にも対応できるように人間力を磨いていこう、と伝えました。

最後に、「キャリア」は、その人の「生き方」そのものである、ということをお再確認し、これから満足のいく幸せな人生づくりを楽しんでください、とエールを送り、出前講座を締め括りました。

今回の出前講座の一番の収穫は、私自身の「生き方」にまだまだ磨きが足りないと感じかされたことでした。今後もロータリークラブの皆様方のご指導、ご鞭撻を頂戴しながら、高桑なりの「生き方」を追究していくことを心に秘め、私の発表を終わります。

田中 正躬

当日は、グループ講義で進行係の方針に従って進めるものと考えていましたが、各自での進行との事で戸惑いました。

この地域の農業について紹介する中で13歳の子供たちが高山の農業について知っている事など聞くとともに、日本の中でも有数の産地であることなど品目を紹介し、このように発展している条件など話しました。

後半のグループについては前半を踏まえて進めましたが、時間的に短いのがまとめにくいことにつながったかと思います。事前に進行方法など把握していればより充実できたかとも思いました。



<ニコニコボックス>

●米澤 久二さん、鴻野 幸泰さん

1月30日、東山中学での出前講座に参加された皆様、お疲れ様でした。1年生の約120名が眼を輝かせていた姿が印象的でした。今日報告される皆様よろしくお祈りします。

●長瀬 達三さん

先日、東山中学校で出前講座を行ってまいりました。14名の講師の皆さん、お忙しい中ありがとうございます。

●平 義孝さん、田中 武さん、向井 公規さん、井上 正さん、田中 晶洋さん、山下 直哉さん、田邊 淳さん、杉山 和宏さん、松川 英明さん

1月30日に東山中学で行われた青少年奉仕委員会担当の出前講座に参加の皆さん、お疲れ様でした。当クラブからは14名が講師として参加し1年生約120名を対象に「働く」をテーマにお話しをして頂きました。若き未来の職業人達の成長に大いに役立った事と思います。本日報告よろしくお祈りします。

●小森 丈一さん

1月29日に行われた高山市叙勲褒章受章祝賀会には西クラブからも多くの方々にご出席頂きありがとうございます。皆様方の友情に感謝しています。

●斎藤 章さん

訓成会20周年の三味線大会ですがチケット購入ご無理お願い致しました。ほぼ完売状態で文化会館大ホール残席60席位となりました。ありがとうございます。

●斎藤 章さん

訓成会20周年の三味線大会ですがチケット購入ご無理お願い致しました。ほぼ完売状態で文化会館大ホール残席60席位となりました。ありがとうございます。

●垣内 秀文さん

約2週間のマスク生活にもおさらばしました。ようやく前歯が揃いました。今日から皆様と一緒に食事を楽しめます。皆様歯は大事にしましょう。

●伊藤 松寿さん、岡田 賛三さん、田近 毅さん、下屋 勝比古さん、山下 直哉さん、住田 泰典さん、黒木 直人さん

今日は2月のノエミの来訪例会です。ようこそ!!ノエミは来日して早くも半年が経ちました。ホストファミリーは現在田近さんです。日本語も相当上手くなった様です。ノエミの成長から益々目が離せません。

●伊藤 松寿さん

本日公務のため早退します。